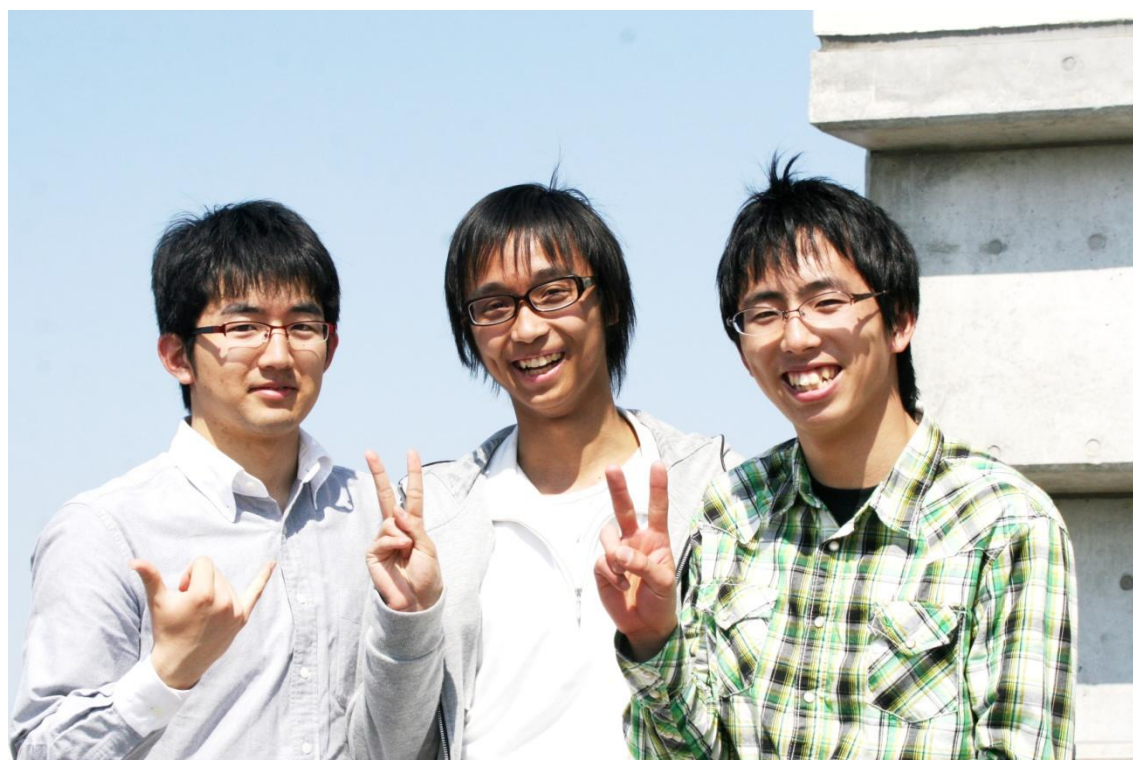


東部地区とOBたち

春というシーズンは、古巣をなつかしむOBのためのものでもあるようだ。昨年の総合優勝を飾った新卒業生たちが東部大会にかけつけてくれた。

みな、通学の大変さや、独り暮らしの不便さなど、それぞれ大学での新鮮な経験談に沸いていた。

いつもながらの、春高らしい光景だ。



春陸はOB何人かに聞けば、他のOBの近況もだいぶ分る。

「ふんふん、なるほど・・・！」と、若手に話を聞いていると、最近はまるで「親戚の甥」と話をしているような感じだ。

これも春高ならでは。

彼らも趣味で陸上は続けるとのことなので、陸連登録が必要なら、「春高会」へ入ったらいい。試合に出る以上、登録先が必要になるから。

春高会は県内で唯一、OBのみの構成。(希望者がいればどこの卒業でも良いのだが・・・)記録会から日本選手権まで参加できるので活用してほしい。

つい先週も、春高へ小学生を連れて行ったら、53回の安田と塚本に再会できた。2000年岐阜・長良川インターハイの時代の選手たち。関東大会に多くの出場を果たした競技熱心な代だ。



安田は高校時代、棒高4m70の好記録を持つインターハイ出場選手。今日は現役春高生に教えに来てくれていた。

大学では沢野大地選手の2学年後輩になる。一緒に練習したことは大きな勉強になったという。

塚本は大学も後輩にもあたる後藤乃毅の応援会にも参加したばかりだと言っていた。彼は400mのエースとして春高入学当初から大活躍。2年生で学徒県大会入賞を果たしている。3年時は故障に泣く。しかし1600mRではアンカーを務め、徳永（400m49秒03）らと県大会6位の3分20秒46をマーク。大学進学後、ケガが治って、400m49秒台に突入したときの感動は忘れないという。

塚本は現役選手でもある。もちろん趣味の域ではあるそうだが、徐々に身体を仕上げていって同期の徳永らとリレーを組む予定らしい。

私は姿勢を変えるだけで腰が「ピキッ！」と悲鳴をあげるのので、「肉離れしないでね・・・」と励ますしかなかった（泣

現役高校生に見せた、安田の模範跳躍は素晴らしかった。
ポールの突っ込みと振り上げはさすがだ。



o



年代はまったく違えど「春陸つながり」は年齢差を隔てない。OBには彼らのように模範となる素晴らしい選手もいれば、私のようにだらだらと後輩たちとくだを巻くだけの者もいる。

このように競技歴、スタイルは様々だが、いつの時代も、一貫して陸上は好きで楽しむものである事は変わらない。そして色々な形で春陸に関わっている。



100年近くも変わらぬ、のどかな部風。

恩師・小原先生の言葉に「人脈は宝だ」というものがある。若いときに聞いたこの大事な言葉は、中年になるまで真意は理解できなかった気がする。

つまりはOBは積極的に、静かに見守ってやれ・・・という事か・・・。

厳しい指導は監督に任せて、OBはただ静かに見守ること。子供たちのやりたいようにやらせてあげる事。そうすれば春高生ならいずれ解かる・・・

柄にもなく、難しい事を言ってしまった・・・私はそれほどの事は何もやっていないのだから。

37回 のもと歯科